

## 令和6年度第1回(通算第3回)倫理委員会 議事録

日時 令和6年9月26日(木) 19時00分~20時00分

場所 オンライン開催

出席者：鈴木郁子、倉田慶子(司会)、渡辺美緒、景山朋子、宮坂道夫、田中美央(書記)

### 報告事項

1. 令和6年度第2回理事会の報告：鈴木郁子先生
  - ・各委員会の議事録の体裁を統一し、ホームページへ掲載することが報告された。
  - ・臨床倫理委員会と本会の役割について検討していくことについて報告があった。

### 審議事項

1. 今後の活動計画案について
  - 1) 研究倫理委員会規定の作成について  
現時点で学会の規定が無いため、他の委員会の動向も確認し、令和6年11月末ごろまで情報収集する。重心の学会が多様な職種で構成されており、総合的に検討する必要がある。
  - 2) 研究倫理指針、学会投稿規定(倫理)について  
今後検討していく。段階的に実施していく必要があり、コンセンサスを得る機会を重ねて作成していく。
  - 3) 学術集会演題登録規定の作成について
    - ・学術集会の抄録段階で、チェックリストに準じた倫理的な確認ができる体制を整えることが必要である。演題応募規定を踏まえ倫理的側面の「最低限のチェックリスト」という位置づけで同意、リスク、個人情報保護、COI、出典についてのチェックリストを作成する。なお、方法はセルフチェック方式とし、チェックしている前提で演題提出する。以上を第3回理事会に提案する。
    - ・研究倫理チェックリストについては、国の指針と合致した内容にする。症例報告、文献研究は指針の対象にならない点、実験は別の指標を用いる点等を確認した。症例報告は個人が特定されない必要があり、病歴や病名が要配慮個人情報にあたる。本人に公表の同意を得る必要がある研究もあり、匿名化、仮名加工、個人情報保護、既存資料(カルテやデータ)の扱い方など其々あるため、「指針を遵守する」と表記した方が容易であるという意見があった。
2. 今後の方向性について
  - ・研究倫理の質を担保し、学会員、施設単位で学習できるように次年度第60回学術集会にてシンポジウムを企画する。
  - ・倫理的な手続きについて、学会のHPにアクセスして確認できる方法を提示する。
  - ・演題登録倫理チェックリスト試案を作成し、メール審議を行う。第3回理事会で検討する。
  - ・学会倫理指針は将来的には策定できるように、方向性検討する。